

試験番号：II J-07-0076(1)

受付日：平成20年2月12日

## 枠組壁工法接合部の強度試験

### 報告書

[シークホールダウン C-HD50/引張試験]

試験結果は、本報告のとおりであることを証明します。

平成20年5月28日

財団法人 日本建築総合試験所

試験研究センター

センター長 工学博士 辻 文三



技術管理者

構造要素試験室長

完山 利行



試験名称	枠組壁工法接合部の強度試験 〔シークホールダウン C-HD50／引張試験〕	
依頼者 (所在地)	株式会社 カナイ (埼玉県八潮市西袋717-1)	
試験実施日	平成20年3月18日および19日	
試験体	形状寸法	図-1.1
	接合金物 および 接合具	商品名 : シークホールダウン C-HD50 接合金物 ; シークホールダウン C-HD50 【SPHC (JIS G 3131)】 接合具 (接合金物-たて枠) ; 3#角ビット鍋スクリュー 20-φ6.0×120 【SWCH22A (JIS G 3507-2)相当材】 接合具 (接合金物-鋼製土台) ; 全ねじボルトM16×580 【S45C (JIS G 4051)】 形状寸法 : 図-1.2、図-1.3
	たて枠	JAS枠組壁工法構造用製材甲種2級相当 3-□38×89 (寸法型式204、S-P-F:カナダ格付け規格によるNo.2)
	試験体数	7体 (うち1体は予備試験体)
	備考	1. 試験体構成部材の仕様を表-1に示す。 2. 試験体の加工および組立は依頼者により行われた。 3. 上記の図表および仕様は依頼者提出資料による。
試験方法	準拠規準	「2007年枠組壁工法建築物 構造計算指針 (2007年11月)、第V編 材料及び接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説、pp.233~276」((社)日本ツーバイフォー建築協会)に準じて試験を行った。
	試験装置	図-2
	荷重方法	予備荷重は単調荷重、本試験は一方向の繰返し荷重とした。 繰返し荷重は、予備荷重試験で得られた試験降伏点変位 $\delta_y$ の25%と50%の変形に対し各1回加力し、その後75%, 100%, 200%, 400%, 600%, 800%以下400%おきに各3回ずつ行うこととした。
	試験体の設置方法	鋼製土台に接合金物をM16ボルト1本で固定した。
	測定機器	荷重値は最大容量70N/mm <sup>2</sup> の圧力計の出力値とオイルジャッキ (最大容量: 300kN) の受圧面積(47.87cm <sup>2</sup> )との積とした。試験体各部の変位量の測定には、図-2に示す位置に設置した変位計を用いた。
試験結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 試験結果の一覧 ----- 表-2</li> <li>・ P-<math>\delta</math> 曲線の包絡線 (試験体相互の比較) ----- 図-3</li> </ul> 上記試験結果中に示した記号の定義を [付録1] に示す。	
	接合部の基準許容応力, 基準終局耐力および基準剛性 <b>基準許容応力 (<math>P_{yo}</math>)</b> : 64 kN <b>基準終局耐力 (<math>P_{uo}</math>)</b> : 103 kN <b>基準剛性 (<math>K_o</math>)</b> : 15.7 kN/mm 基準許容応力, 基準終局耐力および基準剛性の算定方法を [付録2] に示す。	
構造部 構造要素試験室 試験責任者 平井 義行 試験担当者 今西 達也		